

平成 19 年度 基礎学力調査の結果について

◇調査の概要

○調査の目的

県内の児童生徒の基礎学力の定着状況等を把握・分析するとともに、その結果をもとに、各学校において指導法の工夫改善や教育課程の見直し等を図る。

○実施日 平成 19 年 4 月 23 日 (月)・24 日 (火)

○調査内容

(1) 教科に関する調査について

①調査対象学年，教科，対象児童生徒数

| | | |
|-----------------------|-----|------------|
| [小学校] 第 4 学年 国語，算数 | 各教科 | 約 11,000 名 |
| 第 6 学年 社会，理科 | 各教科 | 約 11,000 名 |
| [中学校] 第 3 学年 社会，理科，英語 | 各教科 | 約 11,000 名 |

②分析対象児童生徒数

次の学年及び教科については、各学校から各学年 1 学級を無作為抽出し、調査分析の対象とする。

| | |
|-----------------------|----------------------|
| [小学校] 第 4 学年 国語，算数 | 各学校 1 学級 (約 5,500 名) |
| 第 6 学年 社会，理科 | 各学校 1 学級 (約 5,700 名) |
| [中学校] 第 3 学年 社会，理科，英語 | 各学校 1 学級 (約 3,000 名) |

(2) 質問紙調査について

①対象学年と調査対象人数

【児童生徒】

[小学校] 第 4 学年 無作為抽出した学校の 1 学級 (約 1,100 名)

【教員】

[小学校] 第 4 学年の質問紙調査を実施した学校の全教員 (約 750 名)

[中学校] 無作為抽出した学校の全教員 (約 500 名)

教科別調査結果の概要（小学校第4学年）

小学校第4学年 国語

| 〈内容ごとの平均通過率〉 | | | | 〈観点ごとの平均通過率〉 | | | |
|--------------|--------|------------|--------------|---------------------|------------|--------------|--|
| | 内 容 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | 観 点 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | |
| | | | | | | | |
| 書くこと | 82.4 % | | 話す・聞く能力 | 79.8 % | | | |
| 読むこと | 74.2 % | | 書く能力 | 82.4 % | | | |
| 言語事項 | 77.1 % | | 読む能力 | 74.2 % | | | |
| | | | | 言語についての知識・ 理解・技能 | 77.5 % | | |

- ・話の中心に気を付けて大事なことを聞き取る力は概ね良好であるが、その内容をとらえて話し合う力は十分ではない。
- ・相手や目的に応じて文章を書く力は概ね良好である。
- ・「読むこと」については、内容を大きくとらえる力は概ね良好であるが、読み取った内容を目的に応じて適切にまとめる力は十分とはいえない。
- ・漢字を読んだり書いたりする力は概ね良好である。
- ・「主語」「述語」の理解については徐々に向上しているが、語句相互の関係をとらえる力は十分とはいえない。

小学校第4学年 算数

| 〈内容ごとの平均通過率〉 | | | | 〈観点ごとの平均通過率〉 | | | |
|--------------|--------|------------|---------------------|--------------|------------|--------------|--|
| | 内 容 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | 観 点 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | |
| | | | | | | | |
| 量と測定 | 80.7 % | | 数学的な考え方 | 75.0 % | | | |
| 図形 | 85.9 % | | 数量や図形についての 表現・処理 | 78.0 % | | | |
| 数量関係 | 75.9 % | | 数量や図形についての 知識・理解 | 74.2 % | | | |

- ・加減乗除の基本的な計算や図と対応させて式をよむことは良好であるが、乗法の性質や乗法の適用される場合についての理解は十分とはいえない。順序数や数の相対的な大きさ、乗法の筆算のしくみの理解については改善傾向がみられるが、十分とはいえない。
- ・目的に応じて単位や計器を適切に選ぶことは良好である。
- ・平面図形を基本図形で構成することや、箱の形を構成する辺や面についての理解は良好である。
- ・二次元表をよんだり、考察したりすることは概ね良好である。

教科別調査結果の概要（小学校第6学年）

小学校第6学年 社会

| 〈内容ごとの平均通過率〉 | | | | 〈観点ごとの平均通過率〉 | | | | |
|--------------|--------|------------|--------------|--------------|---------------------|------------|--------------|--|
| | 内 容 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | | 観 点 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | |
| | | | 社 | 地域学習 | | | 75.6 % | |
| 産業と国土 | 76.4 % | | | 社会的な思考・判断 | 77.8 % | | | |
| 会 | | | | | 資料活用の技能・表現 | 75.4 % | | |
| | | | | | 社会的事象についての 知識・理解 | 73.7 % | | |

- ・石川県の地形の概要や交通網についての理解は良好であるが、石川県の主な市町の位置関係等について地図帳を活用する力がやや不足している。
- ・災害から人々の安全を守る工夫については関心は高く、理解も概ね良好である。
- ・我が国の産業や国土の様子についての理解は概ね良好である。
- ・複数の資料から読み取った事実を関連付けて、その意味や背景を考えたり表現したりする力は十分とはいえない。

小学校第6学年 理科

| 〈内容ごとの平均通過率〉 | | | | 〈観点ごとの平均通過率〉 | | | | |
|--------------|--------|------------|--------------|--------------|--------------------|------------|--------------|--|
| | 内 容 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | | 観 点 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | |
| | | | 理 | 生物とその環境 | | | 66.9 % | |
| 物質とエネルギー | 62.4 % | | | 科学的な思考 | 64.3 % | | | |
| 科 | | | | | 観察・実験の技能・表 現 | 59.1 % | | |
| | | | | | 自然事象についての知 識・理解 | 66.9 % | | |

- ・植物とその環境については概ね理解しているが、昆虫の成長の順序や体のつくりについての理解は不十分である。
- ・光の重なりと物の明るさや暖かさの関係についての理解は概ね良好であるが、乾電池の数やつなぎ方によって豆電球の明るさが変わることについての理解は十分とはいえない。
- ・回路の正しいつなぎ方や方位磁針の使い方についての理解と気象情報をもとに天気の変化を予想することについては、改善傾向がみられるがまだ十分とはいえない。

教科別調査結果の概要（中学校第3学年）

中学校第3学年 社会

| 《内容ごとの平均通過率》 | | | | 《観点ごとの平均通過率》 | | | |
|--------------|--------|------------|---------------------|--------------|------------|--------------|--|
| | 内 容 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | 観 点 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | |
| | | | | | | | |
| 歴史的分野 | 49.9 % | | 社会的な思考・判断 | 59.3 % | | | |
| | | | 資料活用の技能・表現 | 59.6 % | | | |
| | | | 社会的事象についての 知識・理解 | 61.9 % | | | |

- ・縮尺の大きな地図から実際の距離を求める技能や地図を活用した方位、地図記号、日本の地方区分、都道府県名の理解は良好である。
- ・資料から事実を読み取り、地域的特色をとらえることは概ね良好であるが、複数の資料を相互に関連付け、多面的・多角的に考察し、表現することは不十分である。
- ・世紀や西暦による年代や時代区分、歴史上の人物や各時代を代表する文化遺産の理解は不十分である。
- ・歴史的事象を大きな流れの中で理解することは良好であるが、資料をもとに時代背景を読み取ることや資料を比較する際に相違点や共通点を明確にすることが不十分である。

中学校第3学年 理科

| 《内容ごとの平均通過率》 | | | | 《観点ごとの平均通過率》 | | | |
|--------------|--------|------------|--------------------|--------------|------------|--------------|--|
| | 内 容 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | 観 点 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | |
| | | | | | | | |
| 第2分野 | 67.6 % | | 科学的な思考 | 60.6 % | | | |
| | | | 観察・実験の技能・表 現 | 45.5 % | | | |
| | | | 自然事象についての知 識・理解 | 52.9 % | | | |

- ・安全に配慮した基本的な操作技能については、十分理解している。
- ・光合成について、実験結果から考察する力は良好である。
- ・原子、分子のイメージを持って化学変化を考えたり、その変化をモデルや化学反応式で表したりする力は不十分である。
- ・電流や力について、問題文から具体的な事象を想定し、それを数値化する力は不十分である。

中学校第3学年 英語

| 《内容ごとの平均通過率》 | | | 《観点ごとの平均通過率》 | | |
|--------------|------------|--------------|-------------------------|------------|--------------|
| 内 容 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) | 観 点 | 県平均 通過率 | 0 50 100 (%) |
| 英 語 | 聞くこと | 73.4 % | コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 | 41.0 % | |
| | 読むこと | 66.8 % | 表現の能力 | 43.5 % | |
| | 書くこと | 43.5 % | 理解の能力 | 69.7 % | |
| | | | 言語や文化についての 知識・理解 | 58.3 % | |

- ・「聞くこと」については、話し手の意図を理解して適切に応答する力は十分とはいえないが、場面の状況について聞き取る力は概ね良好である。
- ・「読むこと」については、複雑な文章の要旨や大切な部分を正確に読み取る力は十分とはいえないが、対話の内容や場面の状況を理解する力は概ね良好である。
- ・「書くこと」については、書こうとする関心・意欲は年々高まってきているが、文法に従って正確に書く力は十分とはいえない。
- ・「言語や文化についての知識・理解」については、基礎的・基本的な語彙や文法に関する知識は十分とはいえない。

質問紙調査結果の概要 (小学校第4学年児童・小中学校教員)

【小4児童の質問ごとの回答状況】

○学校が好きだ

- ・「そう思う」と答えている児童は18年度に比べて7.4ポイント増加、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童の合計の割合は、85%と高い数値を示している。

○勉強が好きだ、授業はわかる

- ・どの教科も、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている児童の割合に上昇傾向がみられる。特に、国語、算数、理科については、年々増加している。
- ・音楽、図画工作、体育、家庭、道徳、学級活動について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えている児童の割合は、どの教科等も80%を超え、特に、図画工作、体育は90%を超えている。

○1日の家庭での勉強時間

- ・「全くしない」「30分より少ない」と答えている児童の割合の合計は、約22%と減少傾向にあり、「1時間以上学習する」と答えた児童の割合については、18年度より約11ポイント増加し、約50%である。

○家庭での学習内容

- ・《学校の宿題》については、約95%の児童が、「よくしている」「している」と答えている。
- ・《復習》や《予習》については、50%近くの児童が、また、《自分の興味あることについて調べたり勉強したりしている》については、約65%の児童が「よくしている」「している」と答えている。

○1日の読書量

- ・平日は、1時間以上読書をしている児童の割合は約20%、「10分より少ない」「全くしない」と答えている児童の割合は約35%である。

○朝食

- ・「必ずとる」「たいていとる」と答えている児童の割合は約97%であり、年々増加している。

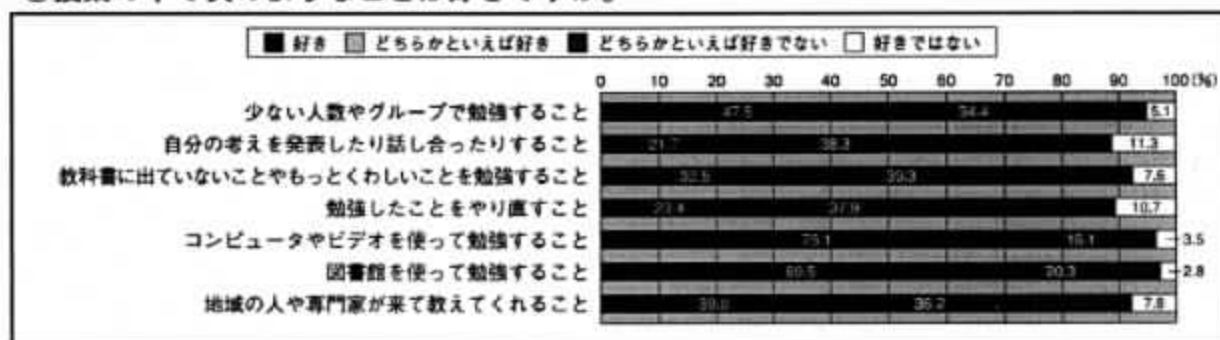
【教員の質問ごとの回答状況】

○各教科等が好きだ・わかると思っている児童生徒はどれくらいいるか

- ・8割を超える小学校教員が、全ての教科で「児童の50%以上が《好きだ》と思っている」と答え、そのうち図画工作、体育、学校については「児童の75%以上が《好きだ》と思っている」と答えている教員は7割を超える。
- ・9割を超える中学校教員が、音楽、保健体育、技術、家庭、学校については「生徒の75%以上が《好きだ》と思っている」と答え、数学、道徳については「生徒の50%以上が《好きだ》と思っている」と答えている教員は約7割である。

【好きな学習スタイルと教員の指導の工夫】

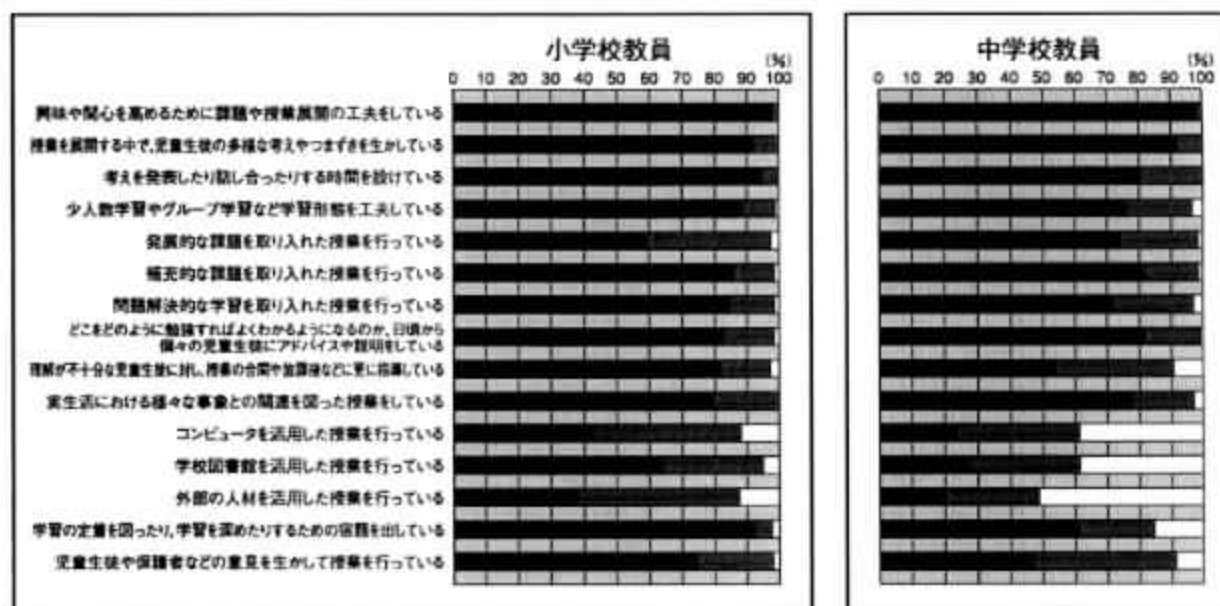
○授業の中で次のようなことは好きですか。



- ・《少ない人数やグループで勉強すること》について、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童の割合は81.9%、《教科書に出ていないことやもっとくわしいことを勉強すること》については71.8%、《自分の考えを発表したり話し合ったりすること》については60.0%である。
- ・《コンピュータやビデオを使って勉強する》や《図書館を使って勉強する》ことを「好き」「どちらかといえば好き」と答えている児童の割合は、90%を超えている。

○ここ数年間における指導を振り返って、1番近いものを選んでください。

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない □ そう思わない



- ・小学校、中学校の9割を超える教員が、《興味や関心を高めるための課題や授業展開の工夫》《児童・生徒の多様な考えやつまずきを生かすこと》については、「よくしている」「どちらかといえばしている」と答えている。
- ・小学校の9割を超える教員が、《考えを発表したり話し合ったりする場面の設定》《宿題を出すこと》については、「よくしている」「どちらかといえばしている」と答えている。
- ・小学校の5割近く、中学校の2割程度の教員が、《コンピュータを活用した授業の実施》《外部の人材を活用した授業の実施》については、「よくしている」「どちらかといえばしている」と答えている。
- ・小学校の6割、中学校の3割近くの教員が、《学校図書館を活用した授業の実施》については、「よくしている」「どちらかといえばしている」と答えている。